

2026年2月1日

全国大学国語教育学会

2025年度 学会通信 第2号

全国大学国語教育学会事務局

全国大学国語教育学会会員の皆様

寒中お見舞い申し上げます。

2025年度学会通信第2号をお送りします。11月の早稲田大会は、600名に迫る参加者を得て盛会でした。本通信の内容は、第150回大会(大和大学大阪吹田キャンパス)の開催情報、『国語科教育』第百集の投稿案内です。よろしくお願いいたします。

◆全国大学国語教育学会マイページのご案内

学会ホームページにマイページをご用意いたしました。学会ホームページよりリンクがありますので、そこから登録頂けます。「登録情報の確認・変更」「年会費の納入状況の確認」が機能としてございます。ご自宅・ご所属先に変更があった際は、マイページにログインいただき、随時変更をお願いいたします。ログインには会員番号とパスワードが必要となります。大変お手数をおかけしますが、ログイン画面中央部の「パスワードの設定はこちら」より、会員番号と学会に登録されているメールアドレスをご入力の上、パスワードの設定をお願いいたします。メールアドレスの登録が無い方、不明の方は、事務局までお問い合わせください。



マイページ登録
はこちら

◆海外のジャーナルによる論文の無断掲載について注意喚起と情報提供のお願い

標記の件に関し、教育関係の複数の学会から注意喚起などを求める通知が出されております。以下、本学会も加盟する「教育関連学会連絡協議会」事務局から出された「注意喚起と情報提供のお願い」の主要部分をお示しいたします。

過日、日本教育政策学会の会員から、学会の年報に掲載された研究論文が無断で英訳され海外のジャーナルに掲載されていたとの連絡がありました。本人が投稿したわけでも、掲載を了承したわけでもないとのこと。また、そのジャーナルから掲載料を請求されてもいないようです。とはいえ、二重投稿の疑いを招きかねないため、削除依頼などの対応を進めています。この件について調べたところ、上記の会員のほか、少なくとももう一人の会員の論文が同様に英訳され掲載されていました。金品を請求することなくわざわざ翻訳してジャーナルに掲載する目的がどこにあるか判然としませんが、原著者自身による研究不正を疑われかねないことが行われていることは重くとらえなければならないと思っています。

重大な問題だと思いますので、関連協会のみなさまに情報提供していただくとともに、同様の情報をおもちの場合はそれをご提供いただけないかと希望しています。

この内容には、事実関係等について詳細が不明な点も若干あるものの、関係諸学会が行動を起こしている以上、本学会も同様に、会員に向け「注意喚起と情報提供のお願い」を行いたいと考えます。会員の皆様におかれましては、「金品の請求」や「研究不正への加担」等の危険性もないとはいえませんので、ご自身やお知り合い等に該当または関係する問題事象が見受けられましたら、まずは一度、全国大学国語教育学会事務局(jtsj-post@as.bunken.co.jp)まで情報をお寄せください。常任理事会等で精査の上、関係学会や協議会へ連絡し、対応策を協議することといたします。

本件につきまして、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第150回全国大学国語教育学会 新大阪吹田大会 について

2026年2月1日

第150回 全国大学国語教育学会・新大阪吹田大会のご案内（第1次）

第150回全国大学国語教育学会 新大阪吹田大会実行委員会

皆様におかれましては、お忙しい日々をお過ごしのことと存じます。

さて、第150回全国大学国語教育学会・新大阪吹田大会を下記の通り開催します。

新大阪駅からも伊丹空港からも近い交通至便の地で、久々に例年の時期に戻して開催しますので、早めにご準備のうえ、皆様ぜひお越しください。

実行委員長 舟橋秀晃（大和大学）

記

1. 開催日：2026(令和8)年5月30日(土)～5月31日(日)

- ・ 事前の参加申込手続きが原則です(当日はオンライン申込のみ、会場は受付デスクなし・現金不可)。以下（特に6.）の参加申込手続きをPC等で済ませてからご来場ください。
- ・ 会場の^{やまと}大和大学は^{エデュローム}eduroam参加機関です(eduroamアカウントをお持ちの方は学内無線LANを無料利用可)。利用方法は「eduroam.jp」サイトを参照し、ご不明点をご所属先の担当者等にお尋ねください。なおeduroam アカウントのない方は、モバイル Wi-Fi をお持ちになるか、資料データをPCへ宿舍等でご来場前にダウンロードするなどしてください。

2. 会場：^{やまと}大和大学 大阪吹田キャンパス **F講義棟** [情報学部・政治経済学部棟]

〒564-0082 大阪府吹田市片山町2-5-1（JR新大阪駅から2駅・JR吹田駅より550m）

- 交通アクセス <https://www.yamato-u.ac.jp/about/access/>
- キャンパスマップ(1の棟) <https://www.yamato-u.ac.jp/about/campus/>

- ・ 本大会では、スタッフによる会場までの誘導はありません。地図アプリでは「大和大学」で検索し、阪急オアシス(食品スーパー)向かいの正門から入構してください(×西門[土日施設])。
- ・ 宿の確保は各自でお願いします。宿はJR新大阪・東淀川・大阪[梅田 & キタ]各駅周辺に豊富で、JR岸边・茨木駅前や阪急淡路駅前にもありますが、吹田駅・会場の近辺にはありません。
- ・ 公共交通機関をご利用ください(JR・阪急吹田駅より徒歩)。大阪(伊丹)空港からは「JR新大阪駅行きリムジンバス」のご利用が便利です。車での来場はお勧めしません(※会場は車両入構禁止、正門前での路肩停車も禁止／※会場周辺有料駐車場は繁忙日の1日最大料金非設定／※会場向かいの食品スーパー[阪急オアシス]駐車場は利用客向けのため駐車不可)。

3. 大会情報： 新大阪吹田大会 **大会広報サイト 2月24日オープン予定**

<https://sites.google.com/view/jtsj2026suitsa/home>

- ・ シンポジウム、課題研究発表、公開講座に関する情報を随時更新していきます。
- ・ 諸注意や変更点なども随時掲載していきます。

4. 開催日程

第1日 5月30日(土)		第2日 5月31日(日)	
8:45	開場 ※	9:00	開場 ※
9:30	自由研究発表	9:30	課題研究発表
12:20	昼食 理事会	12:00	昼食
14:00	総会	12:25	若手研究交流企画
15:10	シンポジウム	13:40	自由研究発表 ラウンドテーブル
17:40		16:30	
18:00	懇親会	※ 受付なし (会場での当日現金申込 不可/オンラインで申込手続きを 済ませてからご来場ください)	
20:00		* 公開講座は別日程 5月23日(土) 14:00~17:00 オンライン開催	

<第1日 5月30日(土)>

- AM 自由研究発表
- PM 理事会・総会

シンポジウム (会場校企画) 「理解方略」の学習指導を考える
 — “デジタル・ファスト・リーディング” 時代の社会参加と文化創造に必要な学習材と指導法 —
 コーディネーター 守田 庸一 (三重大大学)
 登壇者 (五十音順) 足立 幸子 (新潟大学)
 天野 知幸 (京都教育大学)
 古賀 洋一 (島根県立大学)
 渡邊 久暢 (福井県立若狭高等学校)
 懇親会 大和大学学生食堂 ダイニングホール「大-TAI-」

<第2日 5月31日(日)>

- AM 課題研究発表 国語科教育研究の存立基盤 —〈枠組み〉としての教科—
 コーディネーター 初谷 和行 (武蔵野大学)
 登壇者 (五十音順) 上谷順三郎 (鹿児島大学)
 酒井 英樹 (信州大学)
 中村 純子 (東京学芸大学教職大学院)
 森 篤嗣 (武庫川女子大学)
- PM 若手研究交流企画
 自由研究発表・ラウンドテーブル

<プレイベント 5月23日(土)>

- 14:00~17:00 公開講座[Zoomミーティング] *一般公開/無料/参加申込が別途必要
 研究にもとづく授業づくり④ —漢文教育のこれまでとこれから—
 司会・進行 甲斐 伊織 (学習院中等科)

話題提供者（五十音順） 薄井 俊二（埼玉大学）
富安 慎吾（島根大学）
樋口 敦士（狭山ヶ丘高等学校）

- ・公開講座は別日程でオンラインにて開催し、会員外にも無料で公開します。
 - ・公開講座にのみご参加の際、大会自体への参加申込は不要ですが、公開講座への参加申込手続きを事前にお済ませください（先着順・定員制）。
 - ・大会参加者でも、公開講座へのご参加には、事前の申込手続きが別途必要です。
- 関連情報は [大会広報サイト](#)（3.）に随時掲載します。申込方法もサイトでご案内します。

5. 発表申込

（1）区分

- ① 自由研究発表（第1・2日） 発表20分 + 質疑応答10分、接続5分 **先着100枠**
 - ② ラウンドテーブル(第2日) 1時間30分 ~ 2時間50分（最長） **先着 7枠**
- ・①・②とも事前に発表要旨（A4判2段組4頁・白黒・様式指定）を提出してください。
 - ・①の発表日指定はできません。第1日か第2日かは大会事務局にご一任願います。

（2）手続

【発表・参加申込システム】 <https://iap-jp.org/jtsj/conf/member/login> で
お手続きください（[大会広報サイト](#)からも入れます）。

- ・発表申込は**2月24日(火)昼12:30開始**の予定です。
- ・Webでの申込が困難な方は大会ヘルプデスク（7.）までお問い合わせください。

（3）締切

発表申込の締切 4月 3日（金）正午 厳守 ※1
要旨投稿の締切 4月22日（水）正午 厳守 ※2

- ※1 ①・②とも(1)の受入枠に達し次第、締切前でも受付を停止します（先着順）。
- ※2 締切後は要旨の掲載箇所が白紙となり、大会資料サイトへの要旨掲載も行えません。

（4）注意点

a.発表資格の確認

自由研究発表の発表申込者(筆頭発表者)及び共同発表者と、ラウンドテーブルの発表申込者(コーディネーター)は、本学会の会員かつ年会費納入済みであることが発表資格です。
年会費を未納の状態では発表資格を有しません。

○ 今回の発表に際し、新規に入会される方

入会申請を3月16日(月)までに行い、年会費を4月13日(月)までにご納入ください。

○ 現会員の方

開催前年度(2025・R7年度)までの年会費を、4月13日(月)までにご納入ください。

b.その他の確認

- ・発表申込締切（または受付停止後）の発表申込は、一切受け付けません。
- ・発表申込締切の後、題目・発表者等の変更はできません。ただし、締切日までの間はご自身でシステムから修正可能です。
- ・発表申込の登録情報と要旨原稿の記載情報は、必ず一致させてください。やむなく変更する場合は、必ず大会ヘルプデスク（7.）までメールでご連絡ください。

- ・所属が4月から変更になり、発表申込がお済みで、システムで所属名を変更操作できない場合は、必ず(3)「発表申込の締切」までに大会ヘルプデスク（7.）までメールでご連絡ください。

（５）発表申込時の入力項目

① 自由研究発表 ……筆頭発表者が申し込む

発表区分(自由研究発表を選択)

題目・副題

筆頭発表者の氏名(ふりがな)、所属(※(4)bに注意)

共同発表者がいる場合は、その方の氏名(ふりがな)、所属(※(4)bに注意)

プロジェクター使用希望の有無（パソコンは発表者持ち込みでお願いします。接続ケーブルは用意しますが、会場によってRGBかHDMIのいずれかで接続することになりますので、必ず両方の接続アダプターをご準備ください。）

② ラウンドテーブル ……コーディネーターが申し込む

発表区分(ラウンドテーブルを選択)

題目・副題

登壇者の氏名(ふりがな)、所属(※(4)bに注意)、発表形式

共同発表者がいる場合は、その方の氏名(ふりがな)、所属(※(4)bに注意)

プロジェクター使用希望の有無（パソコンは発表者持ち込みでお願いします。接続ケーブルは用意しますが、会場ごとにRGBかHDMIのいずれかで接続するため、必ず両方の接続アダプターをご準備ください。）

（６）発表要旨原稿の投稿

- ・発表の申込手続きが完了したら、投稿できるようになります。
- ・テンプレート（A4判2段組・4頁以内）は学会サイト（<https://www.jtsj.org/taikai>）からダウンロードしてください。発表要旨集（6.（2）④）にはA4判白黒で掲載します。
- ・原稿はPDFの形式にし、【発表・参加申込システム】から投稿してください（投稿画面にPDF変換の装置を設置）。文字化け等がないか、PDF原稿は投稿前に必ずご確認ください。
- ・原稿PDFは大会資料サイトにも掲載します。また、大会終了後はそのままJ-STAGE（<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jtsjs/-char/ja>）にも掲載するため、学習者等の個人情報や著作権に関する取り扱いには十分ご注意ください。

（７）発表上の留意点

○ 当日資料を用意する場合、次の点にご留意ください。

- ・『発表要旨集』配付を前提に、要旨との重複を避け、必要な資料に絞って作成願います。
- ・紙の当日資料は会場運営の都合上、A4判で極力作成してください。**100部を作成し、当日は各教室までお持ちになり、うち2部を司会に渡して、残部を資料配付用机にご自身でお並べください。**宅配預かり、印刷、2日目資料の1日目預かりなどは一切承れません。
- ・当日使用するデジタル資料のアップは任意ですが、PCやタブレット端末での閲覧を希望される方も多く、紙資料不足時への備えもあり、資料のアップには極力ご協力ください。
- ・学習者等の個人情報や著作権の取り扱いにご注意ください。手続きは各自でお取りください。

○ プロジェクターを使用する場合、次の点にご留意ください。

- ・パソコンは発表者自身が持ち込んでください。
- ・接続ケーブルは用意いたしますが、会場によってRGBかHDMIのいずれかで接続することになるので、必ず両方の接続アダプターをご準備ください。
- ・当日に紙資料を配付されない場合でも、進行や座席配置の都合上、**投影データがある場合は**

そのハンドアウト（出力紙）2部を司会に、差し支えない範囲でご提供ください。

6. 参加申込

事前参加申込の締切

郵便振替の方※ 4月22日(水) クレジット決済の方 5月6日(水)

※ 郵便振替の入金締切は4月23日(木)です。お早めにお手続きください。

年会費の早期納入にもご協力ください(一般会員の納入期限は毎年5月末日)。

(1) 手続

【発表・参加申込システム】 <https://iap-jp.org/jtsj/conf/member/login> で
お手続きください（大会広報サイトからも入れます）。

- ・ 大会の参加には事前申込が必要です。参加申込は2月24日(火)昼12:30受付開始予定です。
- ・ 開始前は、アクセスしても受付期間外のメッセージが表示されます。

- 1) 【発表・参加申込システム】のログインページにアクセスする。
 - 2) ログインIDを取得する。登録したメールアドレスに、ログインIDが記載された完了通知メールが配信される。
 - 3) ログインIDと登録したメールアドレスを入力して、システムへログインする（このIDとアドレスは要保存）。
 - 4) 申込者情報を登録する（会員は、会員番号の入力が必須です。会員番号は、学会から会員に発送する封筒の宛名ラベルに記載されています）。
 - 5) 事前参加申込を行う（申し込みが完了すると、登録したメールアドレスに申込完了通知メールが配信されるので、ご確認ください）。
- ※ 参加だけでなく発表もご希望なら、発表申込の手続き（5.）も併せてお願いします。

(2) 大会参加費

①参加費用

申込開始日時（2月24日(火)昼12:30）以降、システム上でお手続きください。

事前申込	当日申込（会期前再オープン）※1※2
（会 員） 6,000円	（会 員） 7,000円
（学生会員） 4,000円	（学生会員） 5,000円
（非 会 員） 7,000円	（非 会 員） 7,000円
（学生非会員） 5,000円	（学生非会員） 6,000円
（懇親会） 5,000円[先着300名]	

※1 事前の申込が原則です（当日はオンライン申込のみ、会場には受付なし・現金不可）。

※2 クレジットカードのない方は、郵便振替にて事前申込の期間内にお手続き願います。

- ・ 事前参加申込の締切後に参加ご希望の場合は【発表・参加申込システム】で会期前から当日までに申込と参加費の納入(クレジットカード決済のみ)を完了させてから会場にお越しください。
- ・ 公開講座のみご参加希望の場合は無料で、【発表・参加申込システム】での登録は不要です。申込方法は別途、大会広報サイトでご案内いたします。

②昼食（第1日・第2日）

※事前申込制で、今回は弁当ではなく学生食堂にて「ランチ」（1,000円/食）をご提供します。

ただし申込数が極端に少ないと弁当での提供となることもあります(味噌汁はお茶に変更)。

5/30土 蒸し鶏の香味だれ定食 大阪泉州玉葱のサラダを添えて（ご飯・小鉢・味噌汁付き）

5/31日 豚ロースしゃぶ肉のおろしポン酢定食 大阪泉州玉葱のサラダを添えて（同 上）

- ・ 事前申込の期間中のみ予約注文を受け付けます。当日申込や現金販売はございません。

- ・学生食堂の土日営業はありません。貸切にて「ランチ」事前申込者のみご来店いただけます。
- ・理事会に出席する役員、ならびにシンポジウム・課題研究発表に登壇する方は、当日分の弁当を大会事務局で用意いたしますので、その当日分についてはご注文不要です。
- ・駅・会場周辺には飲食店、食品スーパー、コンビニエンスストアが豊富にあるものの、近隣各店は混雑します。ご不安な方はこの予約販売(【発表・参加申込システム】)にてご注文ください。

③納入方法

- ・郵便振替とクレジットカード決済のいずれかをご選択ください。
- ・郵便振替の場合、振込先は申込完了後に届く完了通知メールに記載されています。
- ・**郵便振替の申込は4月22日(水)まで、入金4月23日(木)まで**にお願いいたします。

④注意点

- ・発表申込(5.)と参加申込(6.)は別です。**発表者は必ず事前に参加申込も済ませてください。**
- ・印刷された大会発表要旨集をご希望の方は、実費(予価5,000円)にてお求めいただけます。参加申込時に選択してください。**5月6日(水)まで**に入金を確認した申込は会期前に発送します。それ以降の申込分は会期後に発送します。なお、大会発表要旨集は大会終了半年後以降にJ-stage (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jtsjs/-char/ja>) に掲載予定です。
- ・大会に参加するため**新規に本学会に入会される方は4月3日(金)までに入会申請をし、4月13日(月)までに年会費をご納入ください。**時間がかかるためお早めにお手続きください。
- ・託児サービスについては検討中です。2次案内などお知らせいたします。

7. お問い合わせ先

●参加申込・発表申込・原稿投稿・諸費用に関すること

全国大学国語教育学会 大会ヘルプデスク

E-mail : jtsj-desk@conf.bunken.co.jp FAX : 03-5227-8632

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

●年会費に関すること

全国大学国語教育学会 事務局

E-mail : jtsj-post@bunken.co.jp TEL : 03-6824-9377 FAX : 03-5227-8631

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

●第150回全国大学国語教育学会 新大阪吹田大会 に関すること

大会実行委員会 (お問い合わせはEメールでお願いします)

E-mail : funahashi.hideaki@yamato-u.ac.jp

〒564-0082 大阪府吹田市片山町2-5-1 大和大学教育学部 舟橋 秀晃 宛

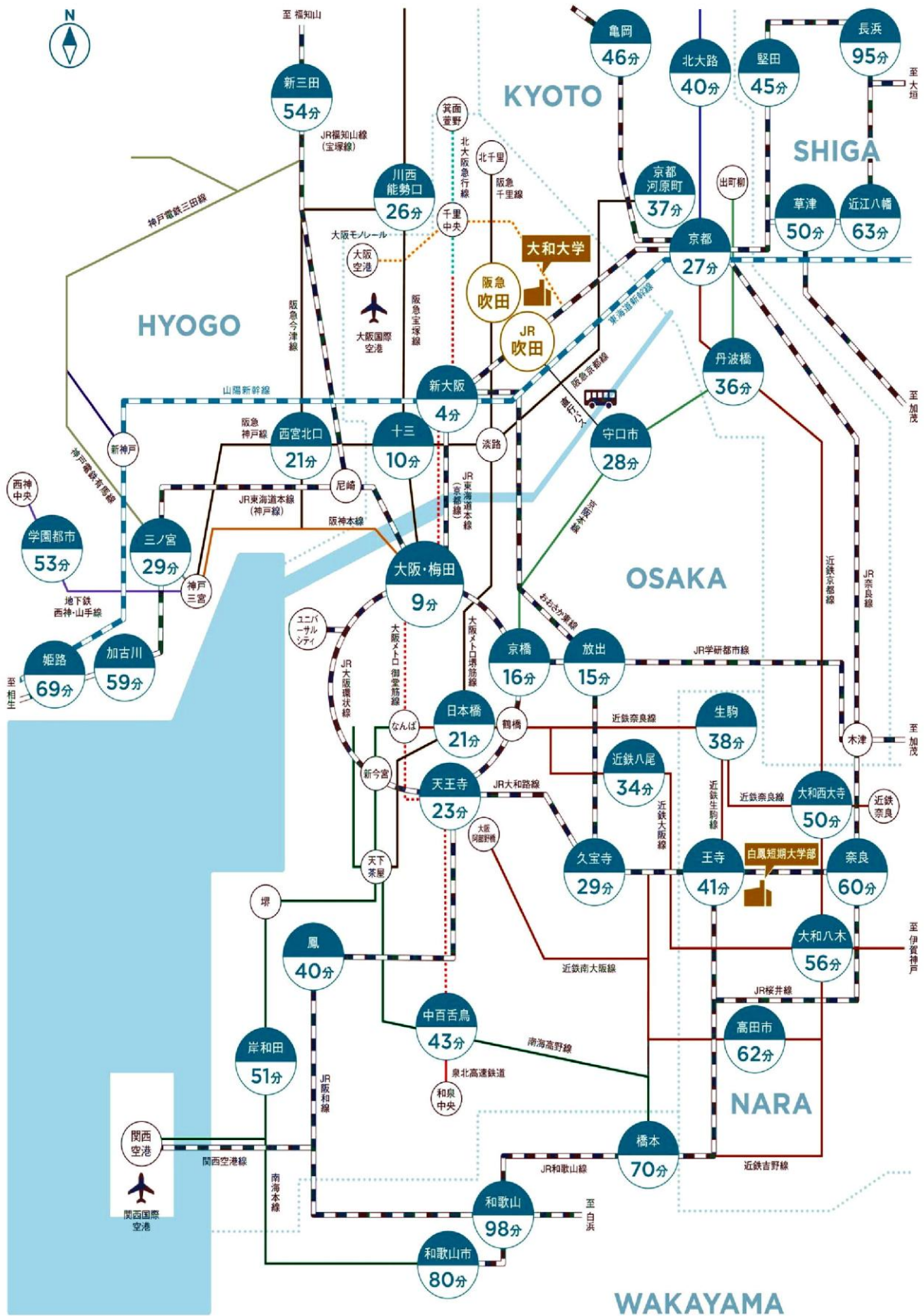
●新大阪吹田大会 実行委員会

実行委員長	舟橋 秀晃 (大和大学教育学部 国語教育専攻) [国語教育学]
事務局長	田川 学 (大和大学教育学部 国語教育専攻) [国語教育学]
実行委員	富江 宏 (大和大学教育学部 国語教育専攻) [国語学]
	上本 雅也 (大和大学教育学部 国語教育専攻) [漢文学]
	礪波美和子 (大和大学教育学部 国語教育専攻) [古典文学]

以上

ACCESS MAP

主な地域から最寄駅「吹田駅」への乗車時間
※最速時間で算出しています。※乗り換え時間は含みません。



※投稿に関する詳細情報はこちら

<https://www.jtsj.org/kokugoka>

1. 投稿論文の受付期間は **2026 年 3 月 1 日(日) ～2026 年 3 月 31 日(火)** です。**この期間以外に投稿された原稿は審査の対象となりません。**
2. 第九十四集から、『国語科教育』への投稿は**電子投稿システムによる募集**となっております。郵送による原稿募集はいたしませんのでご注意ください。電子投稿システムには学会ホームページから入ることができます。
3. 投稿に際しては次の『「国語科教育」投稿要領』に従ってください。なお、電子投稿に対応するため以下の**「原稿を投稿するにあたって」の投稿方法に関する箇所が修正されています**ので必ずご確認ください。

「国語科教育」投稿要領（令和 7 年11月22日改訂）

投稿論文の内容および体裁について

1. 論文原稿は未発表のものに限る。ただし、口頭発表、プリント類の場合はこの限りではない。
なお、他誌に掲載された自らを著者とする論文と著しく重複する内容の論文を、投稿してはならない。
 2. 重複投稿の禁止
本誌『国語科教育』に投稿された論文等はその採否が決定するまで国内・国外を問わず他誌に投稿することはできない。また、他誌に投稿中のものは受付けない。
 3. 募集枠は、「研究論文」「実践論文」「資料」の三つのカテゴリーとする。どの枠に応募したものであるかが分かるように、そのことを題名の前に明記する。ただし、採択の枠付けに関しては、編集委員会の最終的な判断によるものとする。
研究論文：独創的な知見を含む学術研究。
実践論文：国語科の先行実践をふまえて、新たな実践の方向性や意義・価値について学術的な根拠に基づいて論じたもの。
資 料：国語科教育学に関する基礎的データや国語教育の実践・研究に関する情報を提示したもの。
 4. 連続掲載は、原則として2回までとする。
 5. 論文原稿は、縦書きまたは横書きで、原則としてパソコンを使用する。
 6. 編集委員会において特に枚数を指定するもの以外の論文原稿は、**投稿フォーマットで10ページ分以内**とし、1ページあたりの字数・行数を次のようにする。
 - (1) 横書きの場合
23字×44行×2段（1ページ2,024字、ただし最初の1ページは、題目・氏名のスペースとして7行2段をとる。）
 - (2) 縦書きの場合
33字×31行×2段（1ページ2,046字、ただし最初の1ページは、題目・氏名のスペースとして7行2段をとる。）
- * 学会ホームページに記載している、**投稿原稿用のテンプレート**を必ず使用すること。
* 引用および注の文字ポイントは本文と同じとする。ただし、図表についてはこの限りでは

ない。

- * 図表は本文の中に含めて計算し、本文内に該当箇所を明示することとし、縮小率は8割以上、**かつ文字の大きさは8ポイント以上**とする。

7. 原稿は以下の体裁で整えること。

(1) 論文本体

- * 表題の下に、投稿論文に関わるキーワードを記すこと。

*** 論文には氏名・所属等、書き手を特定できる情報は書かないこと。（書かれている場合は審査対象から除外されます）**

(2) 注（ただし、引用のための注はつけない）

(3) 参考文献

*** 論文本体や注、参考文献に「拙稿」「拙著」など、投稿者名が判明するような記述を行わないこと。**

(4) 研究助成を受けた場合の記載

- * 科学研究費等の助成を受けた場合は、書き手が特定されないように、課題番号部分を以下のように記載すること。

（例：本研究は、JSPS科研費課題番号 **** * の助成を受けた）* の数は課題番号の文字数に合わせる。

8. 引用文献の記載について

(1) 引用文献の記載方法は、原則としてAPAスタイルに準拠する。

(2) 本文中における引用の記載方法は、次の通りである。

- ① 著者が一人の場合は、著者の姓および発行年を本文中に挿入する。

.....（高橋，2010）。.....（Black, 1988）。

高橋（2010）は，.....。Black（1988）は，.....。

- ② 著者が二人の場合は、両方の著者の姓および発行年を本文中に挿入する。

.....（高橋・鈴木，2012）。.....（Black & White, 1992）。

高橋・鈴木（2012）は，.....。Black & White（1988）は，.....。

- ③ 同一刊行年の文献は、刊行順にa, b, c, を刊行年に付し区別する。

佐藤学（1999a）『教育時評 1997-1999』世織書房

佐藤学（1999b）『学びの快楽 ダイアログへ』世織書房

- (3) 論文末に、日本語文献と非日本語文献とに分けて参考文献を記載する。日本語文献は著者の姓の五十音順に、非日本語文献は著者の姓のアルファベット順に参考文献を掲載する。翻訳文献は、非日本語文献として記載する。記載方法の例は、次の通りである。

① 学術誌の論文

石井庄司（1953）「国語教育学の完成を期して」『国語科教育』第2号，1-4.

Posner, G. J., Strike, K. A., Hewson, P. W., & Gertzog, W. A. (1982). Accommodation of a scientific conception: Towards a theory of conceptual change. *Science Education*, 66(2), 211-227.

② 書籍

全国大学国語教育学会編著（2013）『国語科教育学研究の成果と展望 2』学芸図書

大槻和夫（1997）「国語科教師における国語教育学の目的と体系」全国大学国語教育学会編『国語教育学の建設1 国語科教師教育の課題』明治図書，1-104.

Fraser, B. J., Tobin, K. G., & McRobbie, C. J. (Eds.). (2012). *Second international handbook of science education*. Dordrecht, Netherlands: Springer.

Wertsch, J. V. (1991). *Voices of the Mind: A sociocultural Approach to Mediated Action*, Cambridge, Mass: Harvard University Press. 田島信元他訳（1995）『心の声—媒介された行為への社会文化的アプローチ』福村出版.

③ オンラインからの引用

文部科学省（2011）「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1301088.htm（〇年〇月〇日確認）

Degelman, D., & Harris, M. L. (2000). *APA style essentials*. Retrieved May 18, 2005,

from Vanguard University, Department of Psychology Web site:
http://www.vanguard.edu/faculty/ddegelman/index.cfm?doc_id=796

- (4) 本文中の文献ページ数の記載は、以下のいずれかの方法に従う。
- ① 発行年の後に「:」（コロン）を入れて「著者名（発行年:ページ）」とする
例：石井庄司（1957:2）は「〇〇〇」と述べている。
 - ② 引用の最後にページ数を明示する。
例：石井庄司（1957）は「〇〇〇」（p.2）と述べている。
 - ③ 注の形式（脚注，または，巻末注）で，参照する文献のページ数を明示する。
例：石井庄司（1957）は「〇〇〇」¹と述べている。 注1. 石井庄司（1957） p.2

原稿を投稿するにあたって

9. **学会ホームページから電子投稿システムによって投稿すること。**投稿に際しては、論文の電子ファイル（WordファイルまたはPDFファイル）が必要になる。なお、英文要旨と日本語要旨は論文掲載決定後に提出となる。
10. 投稿論文は，上期においては8月1日から8月31日までの期間，下期においては3月1日から3月31日までの期間に受け付けるものとする。
11. 著作権について
本誌『国語科教育』に掲載された著作物（電子媒体への変換による利用も含む）の複製権，公衆送信権，翻訳・翻案権，二次的著作物利用権，譲渡権等は本学会に譲渡されたものとする。著作者自身のこれらの権利を拘束するものではないが，再利用する場合は事前に本学会宛に連絡をする。
12. 投稿資格について
投稿にあたっては著者全員が会員資格を有し，**当該年度までの年会費を納入していること。**

※第百集より、編集委員会は会員の中から理事会の選出する12名によって構成されることとなります。
(令和7年11月21日修正)

--